
【編集後記】

『現象と秩序』第17号をお届けします。今号も刺激的な5本の論考が掲載されています。

第1論文は、「孤独死」の当事者についての考察から「当事者/宣言」を分析的な概念として再構成することを試みた意欲的な論考です。カテゴリーをめぐる問題の帰属先としての「当事者」、「問題」を可視化させるメカニズムとしての「宣言」というとらえ方は、当事者宣言の地平をさらに広げることが期待できます。

第2論文は、本誌16号掲載「上方洒落本における罵りの助動詞」の続編です。前号では江戸板から上方板へ改作された洒落本が、今号では上方板から江戸板へ改作された洒落本が検討されています。「江戸ふう」「上方ふう」の罵り言葉とはどんなもののでしょうか。

第3論文は、本誌14号掲載「明治・大正期の大阪落語資料にみる罵りの助動詞について」で行われた考察を、新たに昭和初期の資料を加えて検証し直したものです。大阪方言における上向き/下向き待遇の助動詞の、強さと出現頻度の関係性について分析されています。

第4論文は、AI（人工知能）を扱った論文です。AIという新しい仲間を我々はどうのようにして「人間世界」に取り込もうとしているのでしょうか。AIの挙動を人間世界での有意味な挙動として読み取ろうとする、共同的な知的作業が発見されています。

実践報告「社会学者、ブレインアタックに遭遇」は、コロナ禍に脳内出血に見舞われた社会学者・櫻井芳生氏の、発症から現在の療養までの様子をご家族に綴っていただいたものです。遺伝子社会学を研究していた彼が今をどのように生きているか、ご家族がどのように今を受け止め支えているかを、看護師の日記等も交えて豊かに描いています。社会学的感覚は身体的なものとして社会学者に染みついています。その感覚は生を共にしてきた家族にも広がっていくのでしょうか。私自身の家族を見ていてもそう思う、今日この頃です。(H.Y.)

『現象と秩序』編集委員会（2022年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（摂南大学）

編集委員：樫田美雄（神戸市看護大学）、中塚朋子（就実大学）

編集幹事：川上陵哉（神戸市外国語大学）

編集協力・印刷協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第17号

2022年 10月31日発行

発行所 〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4

神戸市看護大学 樫田研究室 現象と秩序企画編集室

電話・FAX) 078-794-8074（樫田研）、e-mail: kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN : 2188-9848

ONLINE ISSN : 2188-9856

<http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html>